

第3回北区公共施設再配置方針検討委員会 議事概要

日時 令和6年11月28日(木) 15:00~17:00

場所 滝野川分庁舎 教育委員会室

出席者 学識経験者3名、委員6名、事務局5名

- 次第
1. ごあいさつ
  2. 確認事項
  3. 計画改定の概要について
  4. 北区公共施設等総合管理計画(素案)について
  5. 今後の予定
  6. その他

内容

1. ごあいさつ

2. 確認事項

○議事概要の確認について

3. 計画改定の概要について

(質問・意見等)

- ・エリア一帯のまちづくり(エリア・デザイン)について、「※駅周辺以外のエリア」を示す必要はあるのか。  
→駅周辺では市街地再開発事業を起点としたまちづくりを進めているので違いが分かるように記載にしたい。
- ・民間資金活用もある中、金利上昇の影響を踏まえているのか。  
→民間資金活用の手法としてPFI等PPPを示しているが、それぞれの手法を組み込んでコスト試算はしてない。民間資金活用や金利の影響はあると思われるが予測が難しいことから、現行計画と同様に試算している。
- ・延べ床面積の数値が全てではないので目標設定の見直しは順次行ってほしい。

4. 北区公共施設等総合管理計画(素案)について

(質問・意見等)

- ・「ユニバーサルデザインの推進方針」について、大規模改修や更新の時期に大きな費用がかかることを意識しないといけない。脱炭素化は増築や改修案件も対象となってくるので、区全体で検討した方が良い。  
→ZEB化などはコストを踏まえて進めていく必要がある。ユニバーサルデザインについても、全体のコストを縮減するという考え方の中で進めるものと認識している。
- ・新築案件については、「ZEB Oriented 相当以上を目指す」とあるが、北区ゼロカーボンシテ

イ宣言に記載されているのか。

→北区ゼロカーボンシティ宣言に記載されている。ZEB Oriented の対象は 10,000 m<sup>2</sup>以上であることから、それ以外の施設も想定して「相当」としている。

- 施設配置や有効活用の際には、行政組織のあり方を考える必要がある。例えば児童館と図書館を複合化する際に、児童館の図書コーナーと図書館という同種の施設が2つあるようなプランが出てくることがある。利用者にとってはサービスを提供する課は重要ではなく、行政サービスが一体となり、より充実していることが望ましい。

→「問題意識の共有と庁内体制の整備」に記載をしている。公共施設の再配置や学校を複合化してどのような機能を入れるかの検討については、区長を本部長とする北区経営改革本部に基づいて各部署が連携しながら検討し、区として方針を決定している。

- 延べ床面積の数値だけでなく利用状況や現状を踏まえて判断することが重要である。トータルでコスト低減というロジックになるようにしないといけない。  
今あるものを有効活用し、今後も見込まれる機能も果たせるという条件で不足分については検討していくこともあり得る、という組立てが良いのではないか。

- 「行政需要に対応した行政サービスの提供を持続的に図ること」が目標で、それを実現するために一定量減らさなければならない、ということか。

→結果的に減らすのであり、目標と留意点が逆になってしまっている。サービスをしっかり提供していくことが目標で、留意点として「財政的な試算をしっかりと踏まえた体制で進めていく」ことになる。

- 学校について具体的な取組が記載されているが、施設の集約・有効活用のための方策と連動しているのか。

→例を挙げると堀船中学校は複合施設として建設している。

- 施設類別に前段の視点があまりつながっていないように見えてしまう。有効活用が進んでいない施設や、施設類別は異なるが機能が重複する部分について、区民サービス向上のためにこうしていく、というように前段の視点がここに反映されると良い。

- 施設配置は可能であれば 1 枚の地図に全部がまとまっていると良い。

→別途ホームページなどに参考資料として掲載できるか検討する。

- 次回、1 月に第4回を開催